

## 牧師所感：日本の詩人 唐澤るみ子女史

冒頭の詩人唐澤女史より、一通の手紙を戴いた。平素 筆者が尊敬する日本の詩人（特に 北関東在住）は、余命いくばくもない（91歳を生かされる）筆者を労る恵文を贈って下さって、心に大いなる慰めと勇気、感謝が心を満たした。

さて筆者が女史を知るようになった切っ掛けは、以下の通りである。筆者の拙著『牧師所感』③（2016～2018）360頁を転載することにした。

見知らぬ人と何かの縁で出会うこととなったときの喜びは、言葉に表現し難いほど、腹の底まで染みに入る。先日、五味渕 玲子（宇都宮在住のカトリック教会の信徒で、音楽家〔声楽〕であり、お医者様のご婦人）様のご紹介で唐澤るみ子女史のエッセイを読んだ。ところで唐澤女史とは一度の面識もなく、今まで誰からも女史を紹介していただいたことはなかった。ところが上記の五味渕ご夫人により知るに至ったのである。

下の恵文の通り、女史と文通を始めて今日に到る。ここに最近贈って下さった恵文を掲載して、日本人の温かい心差しを、韓国人である一介の牧師の感謝のしとして掲載する。

申  
錦  
錫  
先生

先生は朝鮮にお見えなまへた  
幸運をおへてお力、お祈りを  
日本人の事にお便り下さり  
おへては日本の人地と多く生じ  
みどりの草と多く風倒りをひき  
雨と涼と多く私たちは日本人を  
お見守り下さい  
作りおへておもてなしを  
唐澤るみ子女史

2024.10.16.